

肝細胞癌の治療薬

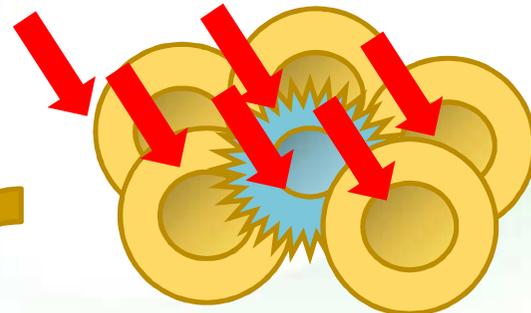
～分子標的薬について～



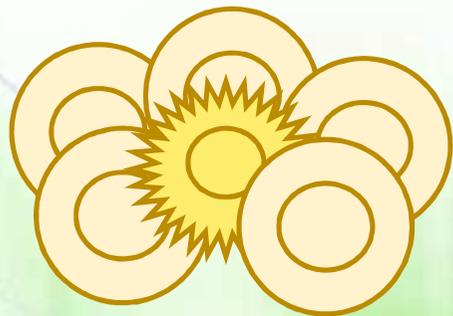
市立秋田総合病院 薬剤部

「分子標的薬」とは？

従来の抗がん剤



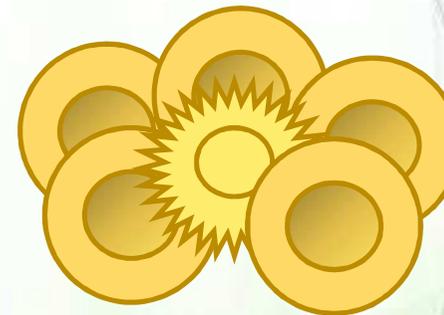
- ・がん細胞のみならず、正常細胞にダメージを与える
- ・副作用は重篤なものが多い



分子標的薬



- ・主に、がん細胞に特異的に作用し、増殖を抑える
- ・副作用は多彩であり、個人差がある



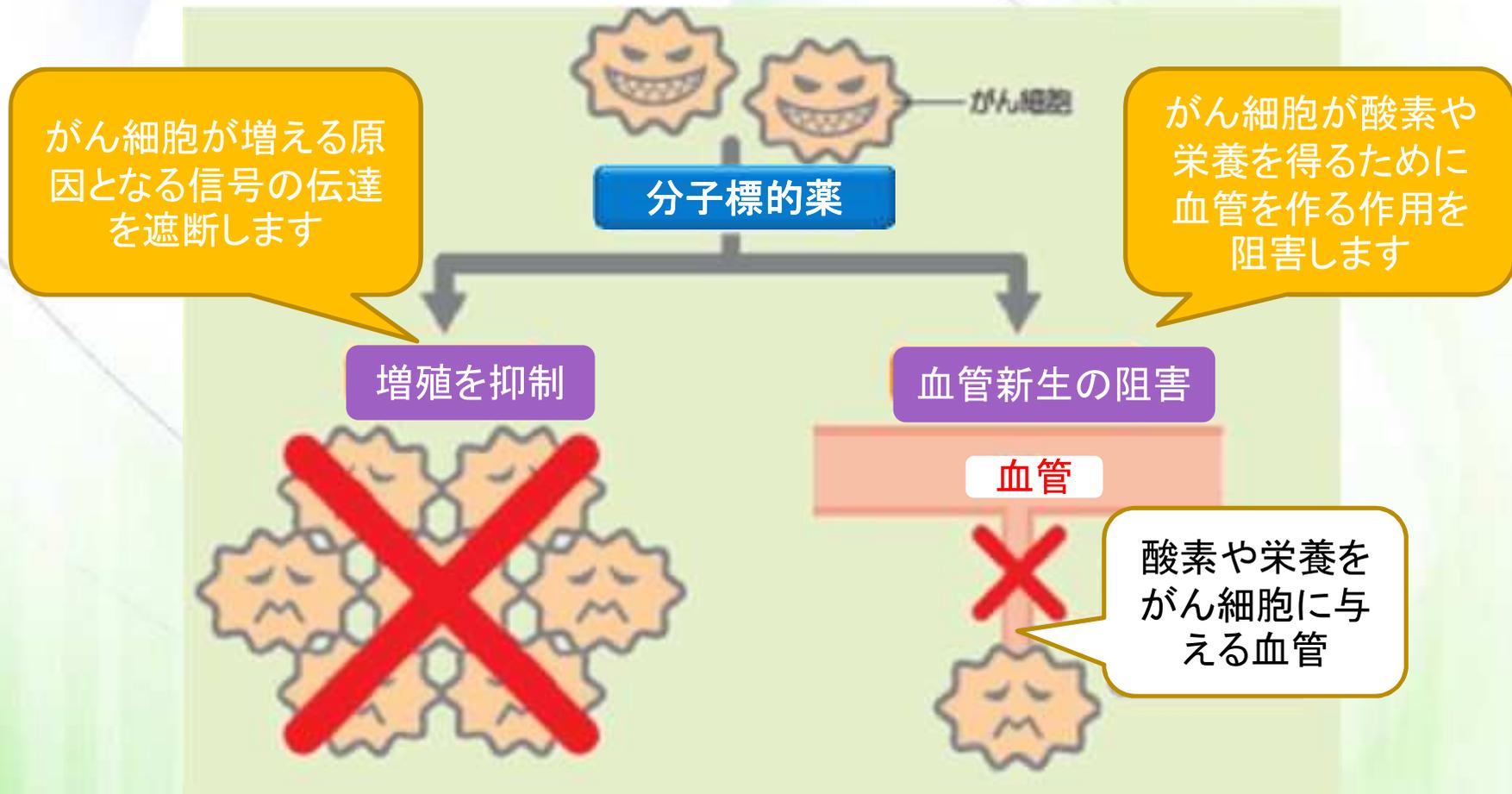
正常細胞



がん細胞

分子標的薬の働き

2つの作用によりがんの増殖を抑えます



分子標的薬の種類

内服薬

- 用法・用量は薬によって様々
- 1日1回もしくは1日2回服用する薬
 - 3週間連日服用し、1週間休薬する薬
 - 食事(高脂肪食)の影響を受ける薬
→ 食後2時間後に服用する
 - 体重により投与量が変わる薬



注射薬

単剤で治療する薬や、他の作用機序(免疫チェックポイント阻害薬)を組み合わせる薬がある



分子標的薬の主な副作用

- **高血圧**
- 手のひらや足の裏の痛みや腫れ
(手足症候群)
- 食欲低下・体重減少・吐き気
- 下痢
- 浮腫み、尿が泡立つ(たんぱく尿)
- 甲状腺機能低下症 など...

高血圧

- 無症状のため気づきにくい
- 放っておくと、脳卒中や心筋梗塞、腎臓病などのリスクとなることがある
- もともと高血圧症の方は注意が必要
- 治療開始後、早期に起こりやすい

血圧は毎日測定・記録をしましょう！

血圧測定のポイント

- 腕で測るタイプの血圧計がおすすめ
- 出来るだけ、毎日同じ時間に測定する
(少なくとも1日1回、可能であれば1日2回)
- 1~2分間 静かに座ってから測定する
- 測定結果は血圧手帳に記録し、受診時に持参を

血圧が高い時の対応

- 家庭で、収縮期血圧が135 mmHg以上または、拡張期血圧が85 mmHg以上の日が続く場合は、予約日を待たずに受診して下さい
- 降圧剤で血圧をコントロールしながら、分子標的薬による治療継続が可能です

さいごに

- 体調が優れない時は、無理しないようにしましょう
- 普段、服用しているお薬で飲みにくいと感じているものがあれば薬剤師へ遠慮なく相談して下さい

